

市長から 市民のみなさんへ 58



山陽小野田市長 白井 博文

新病院建設構想検討委員会から 中間答申が提出されました

9月18日、「新病院建設構想検討委員会」から中間答申をいただきました。この委員会には、老朽化が著しく、存続が困難な状況にある2つの市民病院の今後について、新病院の建設も視野に入れて、協議をお願いしました。3ページにありますように「両病院を統合し、新病院を建設することが望ましい。しかし、その前に、大変厳しい経営状況にある山陽市民病院を速やかに統合すること」という結論をいただきました。

中間答申が提出される前に、すでに新聞等をご覧になった市民の方から「山陽市民病院はどうなるのですか？」という不安の声が市役所には届いていました。

そこで、9月末から病院局長とともに山陽地区の4か所で地元説明会を開催し、答申の内容説明と地元のみなさんと意見交換をする場を急ぎよ、設けたところです。印刷スケジュールの関係で、今回の広報では、その様子をご紹介することはできませんが、現時点で、市長として説明会でお伝えしようと考えているのは、主に以下の3点についてです。

●入院患者を決して“医療難民”にはしません

現在、入院されている60人の患者については、患者や家族のご希望をお伺いし、他の病院で受け入れていただけるようにします。

●地域に“医療空白”を決して生じさせません

地元医師会等に可能な限りのご協力をお願いしていきます。また、山陽市民病院を終点とするバス路線の小野田市民病院までの延長、救急時の問題を含めて、山大附属病院との連携システムの確立などに早急に取り組んでまいります。

●職員の雇用は確保します

希望者には配置転換を含め、働く場は用意します。

病院事業は、市政の現状の課題の中で、一番大きいものです。地元説明会でみなさんのご要望をお伺いし、また関係機関との協議を行った後、市としての方針を決定するつもりです。その際は、広報紙で市民のみなさんにご報告させていただきます。

また、3ページの答申について、みなさんからのご意見、ご提言を募集しています。様々なお考えをお寄せいただきたいと思います。

道路整備事業について

予断を許さない財政状況の中、建設事業の関連予算も極限まで絞り込んだ予算編成を行いました。そんな中、予算化した事業に3年後開催の山口国体「少年ゴルフ競技」の会場へのアクセス道路となる談合道久保線の工事があります。旧山陽町での計画当初から、交通量に見合わない経費をかけることについて、税金の無駄遣いではないかと言われてきましたが、今年度は、100%国の交付金で整備することにしました。そして、生活道として必要な他の道路の整備をすすめるために、談合道久保線の計画変更を行い、事業費を減額し、その減額分を他の市道の整備に充てる予定です。

ここ数年で、最も苦しいと考えられる平成20年度予算の編成作業がもうすぐ始まります。経費節減に取り組むとともに、限られた財源の有効活用についても一層の見直しを図っていくつもりです。

対話の日

[いずれの会場も19:00から]



10月 9日(火) 吉部田自治会館
10月23日(火) 叶松第一自治会館
11月14日(水) 杣尻公会堂

※山陽地区は河合病院事業管理者が同席します。